

私の未来プロジェクト事業

子どもの生活に関するアンケート 調査結果

平成30年3月

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

(旭川大学保健福祉学部 栗田 克実)

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

私の未来プロジェクト事業を実施するにあたり、同事業の効果を数量化して測定するために、本市の児童・生徒の自己肯定感の一つの指標として考え、事業の進行とともに経年変化をコーホートのとらえることを目的とした。

実施3年次にあたる今年度は、「自己肯定感」の設問において、過去（小中学校における）「私の未来プロジェクト事業」の参加有無による比較を行った。

(2) 方法

各校での体験実施前の「事前アンケート」の一部として無記名自記式で実施した。対象者は、体験を実施した学校の児童・生徒とした。実施年月は平成29年7月～平成30年2月である。

質問内容は、①性別、②文化資本と社会関係資本など、③自己肯定感¹⁾の3つを大項目とし、①は1問、②は14問、③は8問（4件法）から構成した。

(3) 実施結果

回収結果については、回答者の性別／学年の内訳を含めて表1に示した。

小学生は1,124名（昨年度：1,027名）、中学生は1,354名（昨年度：1,279名）、そして高校生535名（昨年度：696名）の合計3,002名より回答を得た。

表1 回答者の属性

	合計	Q1 性別			回答者計	
		男	女	無回答		
全体	3002 100.0%	1609 53.6%	1393 46.4%	11	3013	
学年	小学3年	121 100.0%	74 61.2%	47 38.8%	1	122
	小学4年	274 100.0%	141 51.5%	133 48.5%	1	275
	小学5年	700 100.0%	359 51.3%	341 48.7%	1	701
	小学6年	26 100.0%	14 53.8%	12 46.2%	0	26
	中学1年	138 100.0%	70 50.7%	68 49.3%	0	138
	中学2年	92 100.0%	37 40.2%	55 59.8%	1	93
	中学3年	1118 100.0%	551 49.3%	567 50.7%	5	1123
	高校1年	533 100.0%	363 68.1%	170 31.9%	2	535
学校種別	小学生	1121 100.0%	588 52.5%	533 47.5%	3	1124
	中学生	1348 100.0%	658 48.8%	690 51.2%	6	1354
	高校生（再掲）	533 100.0%	363 68.1%	170 31.9%	2	535

2. 調査結果

(1) 文化資本と社会関係資本

1) 本のある環境

「家には本がたくさんある」との問いに対して、全体では57.6%が「はい(ある)」と答えた。

性別で見ると、女性で64.4%が「はい」と答えているのに対して、男性では51.7%にとどまっており、例年と同様の傾向を示している。

学年別にみると、小学6年で「はい」が80.8%であるのに対して、中学1年になると48.2%まで割合が低下している。

学校種別では、小学生(59.8%)、中学生(56.5%)、高校生(56.0%)であり、小学生が他より「はい」と答えた割合が高いが、大きな違いは見られない。

表2 本のある環境

		合計	q2-01家には本がたくさんある(マンガや雑誌は除く)			
			はい	いいえ	わからない	無回答
全体 (学年別集計の合計、以下同じ)		3002 100.0%	1730 57.6%	998 33.2%	274 9.1%	11
性別	男性	1603 100.0%	828 51.7%	621 38.7%	154 9.6%	6
	女性	1392 100.0%	896 64.4%	376 27.0%	120 8.6%	1
学年	小学3年	122 100.0%	76 62.3%	30 24.6%	16 13.1%	0
	小学4年	275 100.0%	176 64.0%	82 29.8%	17 6.2%	0
	小学5年	701 100.0%	399 56.9%	226 32.2%	76 10.8%	0
	小学6年	26 100.0%	21 80.8%	3 11.5%	2 7.7%	0
	中学1年	137 100.0%	66 48.2%	57 41.6%	14 10.2%	1
	中学2年	92 100.0%	47 51.1%	40 43.5%	5 5.4%	1
	中学3年	1119 100.0%	648 57.9%	370 33.1%	101 9.0%	4
	高校1年	530 100.0%	297 56.0%	190 35.8%	43 8.1%	5
学校種別	小学生	1124 100.0%	672 59.8%	341 30.3%	111 9.9%	0
	中学生	1348 100.0%	761 56.5%	467 34.6%	120 8.9%	6
	高校生(再掲)	530 100.0%	297 56.0%	190 35.8%	43 8.1%	5

2) 個室の勉強部屋の有無

「自分一人の勉強部屋を持っている」との問いに対して、全体では72.3%が「はい(ある)」と答えた。

性別で見ると、女性で72.4%が「はい」と答えており、男性の72.1%を上回った。

学年別にみると、前年と同じく、学年(年齢)の上昇とともに「はい」の割合が高くなっている。小学3年の42.6%が最も低く、高校1年の83.5%が最も高い。

学校種別では、小学生の保有率は57.3%にとどまっているものの、中学生以上では80%を超えている。

表3 勉強部屋(個人)の有無

		合計	q2-02自分一人の勉強部屋を持っている			
			はい	いいえ	わからない	無回答
全体		3007 100.0%	2173 72.3%	794 26.4%	40 1.3%	6
性別	男性	1608 100.0%	1159 72.1%	427 26.6%	22 1.4%	1
	女性	1392 100.0%	1008 72.4%	366 26.3%	18 1.3%	1
学年	小学3年	122 100.0%	52 42.6%	65 53.3%	5 4.1%	0
	小学4年	275 100.0%	156 56.7%	113 41.1%	6 2.2%	0
	小学5年	700 100.0%	417 59.6%	273 39.0%	10 1.4%	1
	小学6年	26 100.0%	18 69.2%	6 23.1%	2 7.7%	0
	中学1年	138 100.0%	95 68.8%	38 27.5%	5 3.6%	0
	中学2年	92 100.0%	70 76.1%	22 23.9%	0 .0%	1
	中学3年	1122 100.0%	921 82.1%	190 16.9%	11 1.0%	1
	高校1年	532 100.0%	444 83.5%	87 16.4%	1 0.2%	3
学校種別	小学生	1123 100.0%	643 57.3%	457 40.7%	23 2.0%	1
	中学生	1352 100.0%	1086 80.3%	250 18.5%	16 1.2%	2
	高校生(再掲)	532 100.0%	444 83.5%	87 16.4%	1 0.2%	3

3) 家の人による勉強の促し

「家的人是に私にほとんど毎日「勉強しなさい」と言う」との問いに対して、全体では30.2%が「はい（言う）」と答えた。

性別でみると、男性の33.4%が「はい」と答えており、女性の26.3%を上回った。

学年別にみると、前問と異なり、おおむね学年（年齢）の上昇とともに「いいえ」の割合がおおむね高くなっている。「はい」と答えた割合は、高校1年の14.1%が最も低く、小学3年の49.6%が最も高い。

学校種別でみると、小・中学生では「はい」が30%台であるが、高校生（＝本調査では高校1年）では14.1%まで低下する。

表4 家の人による「勉強しなさい」との促し

		合計	q2-03家的人是に私に、ほとんど毎日「勉強しなさい」と言う			
			はい	いいえ	わからない	無回答
全体		3003 100.0%	906 30.2%	1905 63.4%	192 6.4%	10
性別	男性	1607 100.0%	536 33.4%	975 60.7%	96 6.0%	2
	女性	1389 100.0%	366 26.3%	928 66.8%	95 6.8%	4
学年	小学3年	121 100.0%	60 49.6%	50 41.3%	11 9.1%	1
	小学4年	275 100.0%	106 38.5%	155 56.4%	14 5.1%	0
	小学5年	698 100.0%	231 33.1%	391 56.0%	76 10.9%	3
	小学6年	26 100.0%	7 26.9%	18 69.2%	1 3.8%	0
	中学1年	138 100.0%	49 35.5%	73 52.9%	16 11.6%	0
	中学2年	92 100.0%	30 32.6%	54 58.7%	8 8.7%	1
	中学3年	1121 100.0%	348 31.0%	714 63.7%	59 5.3%	2
	高校1年	532 100.0%	75 14.1%	450 84.6%	7 1.3%	3
学校種別	小学生	1120 100.0%	404 36.1%	614 54.8%	102 9.1%	4
	中学生	1351 100.0%	427 31.6%	841 62.3%	83 6.1%	3
	高校生（再掲）	532 100.0%	75 14.1%	450 84.6%	7 1.3%	3

4) 家の人に勉強をみてもらう

「家の人に勉強を見てもらったことがある」との問いに対して、全体では76.4%が「はい(ある)」と答えた。

性別で見ると、女性で82.0%が「はい」と答えており、男性の71.4%を上回った。

学年別にみると、高校1年の73.6%が最も低く、小学6年の92.3%が最も高い。

学校種別では、小学生全体で86.7%、中学生全体で68.8%が家の人に勉強をみてもらった経験がある。

表5 家の人に勉強をみてもらった経験

		合計	q2-04家の人に勉強を見てもらったことがある			
			はい	いいえ	わからない	無回答
全体		3003 100.0%	2293 76.4%	596 19.8%	116 3.9%	10
性別	男性	1606 100.0%	1146 71.4%	387 24.1%	73 4.5%	3
	女性	1392 100.0%	1142 82.0%	207 14.9%	43 3.1%	1
学年	小学3年	122 100.0%	104 85.2%	13 10.7%	5 4.1%	0
	小学4年	275 100.0%	239 86.9%	28 10.2%	8 2.9%	0
	小学5年	701 100.0%	608 86.9%	72 10.3%	20 2.9%	0
	小学6年	26 100.0%	24 92.3%	1 3.8%	1 3.8%	0
	中学1年	138 100.0%	105 76.1%	28 20.3%	5 3.6%	0
	中学2年	92 100.0%	69 75.0%	20 21.7%	3 3.3%	1
	中学3年	1118 100.0%	753 67.2%	305 27.2%	63 5.6%	5
	高校1年	531 100.0%	391 73.6%	129 24.3%	11 2.1%	4
学校種別	小学生	1124 100.0%	975 86.7%	114 10.1%	34 3.0%	0
	中学生	1348 100.0%	927 68.8%	353 26.2%	71 5.3%	6
	高校生(再掲)	531 100.0%	391 73.6%	129 24.3%	11 2.1%	4

5) 家の人に本を読んでもらった経験

「小さいころ、家の人によく本を読んでもらった」との問いに対して、全体では58.2%が「はい(ある)」と答えた。

性別でみると、女性で63.6%が「はい」と答えており、男性の53.5%を上回った。

この設問は、「小さいころ」と幼少期の記憶をたずねる回顧的設問であり、前年と同様に「わからない」との回答が多く、今回も2割を超えた。

学年別にみると、小学6年の65.4%が最も高く、小学3,5年の54.9%が最も低い。学年ごとの値は調査年度によって変動がみられる。

学校種別でみると、小学生が57.7%、中学生が57.5%、そして高校生が61.0%であり、大きな差は見られなかった。

表6 小さいころ家の人に本を読んでもらった経験

		合計	q2-05小さいころ、家の人によく本を読んでもらった			
			はい	いいえ	わからない	無回答
全体		3003 100.0%	1747 58.2%	544 18.1%	712 23.7%	10
性別	男性	1604 100.0%	858 53.5%	347 21.6%	399 24.9%	5
	女性	1392 100.0%	885 63.6%	196 14.1%	311 22.3%	1
学年	小学3年	122 100.0%	67 54.9%	17 13.9%	38 31.1%	0
	小学4年	275 100.0%	179 65.1%	44 16.0%	52 18.9%	0
	小学5年	701 100.0%	385 54.9%	136 19.4%	180 25.7%	0
	小学6年	26 100.0%	17 65.4%	4 15.4%	5 19.2%	0
	中学1年	138 100.0%	77 55.8%	27 19.6%	34 24.6%	0
	中学2年	92 100.0%	58 63.0%	14 15.2%	20 21.7%	1
	中学3年	1118 100.0%	640 57.2%	207 18.5%	271 24.2%	5
	高校1年	531 100.0%	324 61.0%	95 17.9%	112 21.1%	4
学校種別	小学生	1124 100.0%	648 57.7%	201 17.9%	275 24.5%	0
	中学生	1348 100.0%	775 57.5%	248 18.4%	325 24.1%	6
	高校生(再掲)	531 100.0%	324 61.0%	95 17.9%	112 21.1%	4

6) 規則的な起床（時刻）

「家の方は、毎日、ほとんど決まった時間に起きる」との問いに対して、全体では75.5%が「はい（決まった時間に起きる）」と答えた。

性別で見ると、女性の76.0%が「はい」と答えており、男性の75.0%をやや上回った。

学年別にみると、高校1年の87.0%が最も高く、小学3年の63.1%が最も低く、低学年ほど「はい」と答える割合が低下した。

表7 家の方は毎日ほとんど決まった時間に起きる

		合計	q2-06家の方は、毎日、ほとんど決まった時間に起きる			
			はい	いいえ	わからない	無回答
全体		3003 100.0%	2267 75.5%	418 13.9%	318 10.6%	10
性別	男性	1606 100.0%	1205 75.0%	253 15.8%	148 9.2%	3
	女性	1390 100.0%	1057 76.0%	165 11.9%	168 12.1%	3
学年	小学3年	122 100.0%	77 63.1%	29 23.8%	16 13.1%	0
	小学4年	275 100.0%	189 68.7%	56 20.4%	30 10.9%	0
	小学5年	701 100.0%	485 69.2%	119 17.0%	97 13.8%	0
	小学6年	26 100.0%	18 69.2%	5 19.2%	3 11.5%	0
	中学1年	138 100.0%	104 75.4%	17 12.3%	17 12.3%	0
	中学2年	91 100.0%	66 72.5%	14 15.4%	11 12.1%	2
	中学3年	1119 100.0%	866 77.4%	133 11.9%	120 10.7%	4
	高校1年	531 100.0%	462 87.0%	45 8.5%	24 4.5%	4
学校種別	小学生	1124 100.0%	769 68.4%	209 18.6%	146 13.0%	0
	中学生	1348 100.0%	1036 76.9%	164 12.2%	148 11.0%	6
	高校生（再掲）	531 100.0%	462 87.0%	45 8.5%	24 4.5%	4

7) 食事を大切にしているか

「自分の家では食事を大切にしているか」との問いに対して、全体では72.1%が「はい（食事を大切にしている）」と答えた（前年と同じ値）。その一方で、「わからない」との回答が多く20.3%であった（前回：20.1%）。

性別で見ると、男性の73.8%が「はい」と答えており、女性の70.1%を上回った。

学年別にみると、「はい」と答えた者の割合は、小学4年の77.5%が最も高く、中学1年の65.9%が最も低い。

学校種別では、小中高校で大きな差は見られない（70.7%～74.1%）。

表8 自分の家では食事を大切にしている

		合計	q2-07自分の家では食事を大切に考えている			
			はい	いいえ	わからない	無回答
全体		3005 100.0%	2166 72.1%	230 7.7%	609 20.3%	8
性別	男性	1607 100.0%	1186 73.8%	138 8.6%	283 17.6%	2
	女性	1391 100.0%	975 70.1%	92 6.6%	324 23.3%	2
学年	小学3年	122 100.0%	88 72.1%	7 5.7%	27 22.1%	0
	小学4年	275 100.0%	213 77.5%	19 6.9%	43 15.6%	0
	小学5年	701 100.0%	499 71.2%	42 6.0%	160 22.8%	0
	小学6年	26 100.0%	18 69.2%	1 3.8%	7 26.9%	0
	中学1年	138 100.0%	91 65.9%	14 10.1%	33 23.9%	0
	中学2年	92 100.0%	70 76.1%	6 6.5%	16 17.4%	1
	中学3年	1119 100.0%	793 70.9%	98 8.8%	228 20.4%	4
	高校1年	532 100.0%	394 74.1%	43 8.1%	95 17.9%	3
学校種別	小学生	1124 100.0%	818 72.8%	69 6.1%	237 21.1%	0
	中学生	1349 100.0%	954 70.7%	118 8.7%	277 20.5%	5
	高校生（再掲）	532 100.0%	394 74.1%	43 8.1%	95 17.9%	3

8) 近所付き合い

「自分を含め、家の人には近所付き合いを大切にしている」との問いに対して、全体では 53.4% が「はい (大切にしている)」と答えた。この値は年々減少している。また、この設問では「わからない」が 34.0% で高い割合を示しており、近所付き合いに対して関心を抱いていない回答者が「わからない」と回答している可能性がある。

性別でみると、女性の 55.6% が「はい」と答えており、男性の 51.7% を上回った。

しかしながら、学年別にみると、小学 4 年で「はい」と答えた者が 66.5% と最も高く（前年と同様）、最も低かったのは、小学 3 年の 47.5% であった。

学校種別でみると、「はい」と答えている割合は、小学生で 57.6%、中学生で 50.2% とその割合が低下し、高校生では 52.9% となっている。

表 9 近所付き合いを大切にしている

		合計	q2-08自分を含め、家の人には近所づきあいを大切にしている			
			はい	いいえ	わからない	無回答
全体		3005 100.0%	1606 53.4%	378 12.6%	1021 34.0%	8
性別	男性	1605 100.0%	829 51.7%	231 14.4%	545 34.0%	4
	女性	1393 100.0%	774 55.6%	147 10.6%	472 33.9%	0
学年	小学3年	122 100.0%	58 47.5%	9 7.4%	55 45.1%	0
	小学4年	275 100.0%	183 66.5%	14 5.1%	78 28.4%	0
	小学5年	701 100.0%	389 55.5%	71 10.1%	241 34.4%	0
	小学6年	26 100.0%	17 65.4%	2 7.7%	7 26.9%	0
	中学1年	138 100.0%	75 54.3%	15 10.9%	48 34.8%	0
	中学2年	92 100.0%	54 58.7%	11 12.0%	27 29.3%	1
	中学3年	1120 100.0%	549 49.0%	180 16.1%	391 34.9%	3
	高校1年	531 100.0%	281 52.9%	76 14.3%	174 32.8%	4
学校種別	小学生	1124 100.0%	647 57.6%	96 8.5%	381 33.9%	0
	中学生	1350 100.0%	678 50.2%	206 15.3%	466 34.5%	4
	高校生（再掲）	531 100.0%	281 52.9%	76 14.3%	174 32.8%	4

9) 地域住民との行事参加

「地域の人と一緒に行事に取り組んだことがある」との問いに対して、全体では61.6%が「はい（ある）」と答えた。

性別でみると、女性の62.7%が「はい」と答えており、男性の60.9%を上回った。

学年別にみると、小学6年の84.6%が最も高く、小学3年の51.6%が最も低い。

学校種別でみると、「はい」と答えている割合は、高校生では67.6%と最も高く、小学生では63.9%とその割合が低下し、中学生では57.4%となっている。

表 10 地域住民との行事参加

		合計	q2-09地域の人と一緒に行事に取り組んだことがある			
			はい	いいえ	わからない	無回答
全体		3005 100.0%	1852 61.6%	766 25.5%	387 12.9%	8
性別	男性	1606 100.0%	978 60.9%	422 26.3%	206 12.8%	3
	女性	1392 100.0%	873 62.7%	340 24.4%	179 12.9%	1
学年	小学3年	122 100.0%	63 51.6%	39 32.0%	20 16.4%	0
	小学4年	275 100.0%	173 62.9%	63 22.9%	39 14.2%	0
	小学5年	701 100.0%	460 65.6%	147 21.0%	94 13.4%	0
	小学6年	26 100.0%	22 84.6%	4 15.4%	0 0.0%	0
	中学1年	137 100.0%	76 55.5%	34 24.8%	27 19.7%	1
	中学2年	92 100.0%	53 57.6%	28 30.4%	11 12.0%	1
	中学3年	1121 100.0%	646 57.6%	337 30.1%	138 12.3%	2
	高校1年	531 100.0%	359 67.6%	114 21.5%	58 10.9%	4
学校種別	小学生	1124 100.0%	718 63.9%	253 22.5%	153 13.6%	0
	中学生	1350 100.0%	775 57.4%	399 29.6%	176 13.0%	4
	高校生（再掲）	531 100.0%	359 67.6%	114 21.5%	58 10.9%	4

10) 新聞を読んでいる

「新聞を読んでいる」との問いに対して、全体では23.7%が「はい(ある)」と答え、前年より1.9%、前々年より4.6%低下した。

性別でみると、男性の25.7%が「はい」と答えており、女性の21.3%を上回った。

学年別にみると、前年調査と同じく半数を超えた学年はなく、小学4年が38.2%で最も高く、中学2年が16.3%で最も低かった。

学校種別でみると、小学生では30.2%、中学生では19.9%、高校生では19.5%が「新聞を読んでいる」と答えた。新聞を読んでいる割合は全体的に低いといえる。

表 11 新聞を読んでいる

		合計	q2-10新聞を読んでいる			
			はい	いいえ	わからない	無回答
全体		3005 100.0%	712 23.7%	2197 73.1%	96 3.2%	8
性別	男性	1606 100.0%	413 25.7%	1140 71.0%	53 3.3%	3
	女性	1392 100.0%	296 21.3%	1054 75.7%	42 3.0%	1
学年	小学3年	122 100.0%	35 28.7%	80 65.6%	7 5.7%	0
	小学4年	275 100.0%	105 38.2%	162 58.9%	8 2.9%	0
	小学5年	699 100.0%	190 27.2%	478 68.4%	31 4.4%	2
	小学6年	26 100.0%	9 34.6%	15 57.7%	2 7.7%	0
	中学1年	138 100.0%	32 23.2%	101 73.2%	5 3.6%	0
	中学2年	92 100.0%	15 16.3%	75 81.5%	2 2.2%	1
	中学3年	1121 100.0%	222 19.8%	869 77.5%	30 2.7%	2
	高校1年	532 100.0%	104 19.5%	417 78.4%	11 2.1%	3
学校種別	小学生	1122 100.0%	339 30.2%	735 65.5%	48 4.3%	2
	中学生	1351 100.0%	269 19.9%	1045 77.4%	37 2.7%	3
	高校生(再掲)	532 100.0%	104 19.5%	417 78.4%	11 2.1%	3

11) 悩みを話せる人がいる

「悩みを話せる人がいる」との問いに対して、全体では79.3%が「はい(いる)」と答えた。この割合は前年と比べて2.5%高かった。

性別で見ると、女性の83.2%が「はい」と答えており、男性の76.0%を上回った。

学年別にみると、中学2年で82.6%と最も高く、高校1年、小学4年、小学6年、小学5年までは8割を超えている。一方、最も低かったのは、小学3年で68.0%であった。

学校種別にみると、小学生で79.2%、中学生で78.2%、高校生では82.5%が「悩みを話せる人がいる」と答えているが、小学生において「いいえ(いない)」と回答したものが12.1% (小学3年：18.0%) いたことは特筆すべき結果である。

表 12 悩みを話せる人がいる

		合計	q2-11悩みを話せる人がいる			
			はい	いいえ	わからない	無回答
全体		3003 100.0%	2382 79.3%	305 10.2%	316 10.5%	10
性別	男性	1605 100.0%	1219 76.0%	206 12.8%	180 11.2%	4
	女性	1391 100.0%	1158 83.2%	98 7.0%	135 9.7%	2
学年	小学3年	122 100.0%	83 68.0%	22 18.0%	17 13.9%	0
	小学4年	275 100.0%	225 81.8%	29 10.5%	21 7.6%	0
	小学5年	700 100.0%	560 80.0%	83 11.9%	57 8.1%	1
	小学6年	26 100.0%	21 80.8%	2 7.7%	3 11.5%	0
	中学1年	138 100.0%	102 73.9%	18 13.0%	18 13.0%	0
	中学2年	92 100.0%	76 82.6%	10 10.9%	6 6.5%	1
	中学3年	1120 100.0%	878 78.4%	102 9.1%	140 12.5%	3
	高校1年	530 100.0%	437 82.5%	39 7.4%	54 10.2%	5
学校種別	小学生	1123 100.0%	889 79.2%	136 12.1%	98 8.7%	1
	中学生	1350 100.0%	1056 78.2%	130 9.6%	164 12.1%	4
	高校生(再掲)	530 100.0%	437 82.5%	39 7.4%	54 10.2%	5

12) 定住意識

「このまちにずっと住みたい」との問いに対して、全体では50.2%が「はい（住みたい）」と答えた。前年の値（50.3%）とほぼ同じであった。

性別でみると、男性の51.3%が「はい」と答えており、女性の48.8%を上回った。

学年別にみると、学年進行とともに「はい」の割合がおおむね低下している。小学4年では76.6%が「はい」と答えたが、中学3年では40.6%と半数を下回り、高校1年では32.0%にとどまった。

学校種別でみると、小学生で68.4%、中学生では42.2%が「はい」と答えた。

この設問では、中学生以上で「わからない」との回答が3割を超えている（特定の学校において回答が目立っていたわけではない）。

表 13 定住意識

		合計	q2-12このまちにずっと住みたい			
			はい	いいえ	わからない	無回答
全体		2998 100.0%	1505 50.2%	627 20.9%	866 28.9%	15
性別	男性	1601 100.0%	822 51.3%	324 20.2%	455 28.4%	8
	女性	1390 100.0%	679 48.8%	303 21.8%	408 29.4%	3
学年	小学3年	122 100.0%	92 75.4%	15 12.3%	15 12.3%	0
	小学4年	274 100.0%	210 76.6%	30 10.9%	34 12.4%	1
	小学5年	698 100.0%	447 64.0%	90 12.9%	161 23.1%	3
	小学6年	26 100.0%	17 65.4%	7 26.9%	2 7.7%	0
	中学1年	136 100.0%	69 50.7%	25 18.4%	42 30.9%	2
	中学2年	92 100.0%	46 50.0%	16 17.4%	30 32.6%	1
	中学3年	1119 100.0%	454 40.6%	270 24.1%	395 35.3%	4
	高校1年	531 100.0%	170 32.0%	174 32.8%	187 35.2%	4
学校種別	小学生	1120 100.0%	766 68.4%	142 12.7%	212 18.9%	4
	中学生	1347 100.0%	569 42.2%	311 23.1%	467 34.7%	7
	高校生（再掲）	531 100.0%	170 32.0%	174 32.8%	187 35.2%	4

13) 目標とする人の存在

「あなたには「あのような人になりたい」と思う人がいる」との問いに対して、全体では65.6%が「はい（いる）」と答えた。

性別でみると、女性の70.1%が「はい」と答えており、男性の61.8%を上回った。

学年別にみると、小学4年が74.9%と3年連続で最も高かった。一方、中学3年が60.7%で最も低い。

学校種別でみると、小学生では71.2%であるが、中学生では61.7%、高校生では63.9%が「はい」と答えており、小学生がやや高かった。

表 14 あのような人になりたい

		合計	q2-13あなたには「あのような人になりたい」と思う人がいる			
			はい	いいえ	わからない	無回答
全体		3004 100.0%	1971 65.6%	663 22.1%	370 12.3%	9
性別	男性	1606 100.0%	992 61.8%	429 26.7%	185 11.5%	3
	女性	1391 100.0%	975 70.1%	233 16.8%	183 13.2%	2
学年	小学3年	122 100.0%	75 61.5%	33 27.0%	14 11.5%	0
	小学4年	275 100.0%	206 74.9%	49 17.8%	20 7.3%	0
	小学5年	698 100.0%	500 71.6%	134 19.2%	64 9.2%	3
	小学6年	26 100.0%	17 65.4%	4 15.4%	5 19.2%	0
	中学1年	138 100.0%	92 66.7%	29 21.0%	17 12.3%	0
	中学2年	92 100.0%	61 66.3%	16 17.4%	15 16.3%	1
	中学3年	1121 100.0%	680 60.7%	269 24.0%	172 15.3%	2
	高校1年	532 100.0%	340 63.9%	129 24.2%	63 11.8%	3
学校種別	小学生	1121 100.0%	798 71.2%	220 19.6%	103 9.2%	3
	中学生	1351 100.0%	833 61.7%	314 23.2%	204 15.1%	3
	高校生（再掲）	532 100.0%	340 63.9%	129 24.2%	63 11.8%	3

14) 将来についての会話

最後に、「家の人と将来のことについて話すことがある」とたずねた。全体では 72.0%が「はい（ある）」と答えており、前年と同じ値であった。

性別でみると、女性の 75.0%が「はい」と答えており、男性の 69.5%を上回った。

学年別にみると、中学 2 年で 80.4%と最も高く、小学 3 年の 58.2%が最も低い。

学校種別でみると、小学生では 61.1%であるが、中学生では 77.9%と割合が高くなり、高校生では 80.2%が「はい」と答えた。

前年調査と同様に、学年（年齢）の上昇とともに、家族と将来のことを話す割合も高くなっている。

表 15 将来について家族との会話

		合計	q2-14家の人と将来のことについて話すことがある			
			はい	いいえ	わからない	無回答
全体		3004 100.0%	2163 72.0%	646 21.5%	195 6.5%	9
性別	男性	1605 100.0%	1115 69.5%	387 24.1%	103 6.4%	4
	女性	1392 100.0%	1044 75.0%	258 18.5%	90 6.5%	1
学年	小学3年	122 100.0%	71 58.2%	46 37.7%	5 4.1%	0
	小学4年	275 100.0%	165 60.0%	95 34.5%	15 5.5%	0
	小学5年	700 100.0%	433 61.9%	207 29.6%	60 8.6%	1
	小学6年	26 100.0%	17 65.4%	6 23.1%	3 11.5%	0
	中学1年	138 100.0%	89 64.5%	36 26.1%	13 9.4%	0
	中学2年	92 100.0%	74 80.4%	14 15.2%	4 4.3%	1
	中学3年	1120 100.0%	888 79.3%	164 14.6%	68 6.1%	3
	高校1年	531 100.0%	426 80.2%	78 14.7%	27 5.1%	4
学校種別	小学生	1123 100.0%	686 61.1%	354 31.5%	83 7.4%	1
	中学生	1350 100.0%	1051 77.9%	214 15.9%	85 6.3%	4
	高校生（再掲）	531 100.0%	426 80.2%	78 14.7%	27 5.1%	4

(2) 自己肯定感

1) やると決めたことは最後までやり通す

まず、「やると決めたことは最後までやり通す」についてたずねたところ、全体では57.3%が「ややあてはまる」と答え、最も高い割合を示した。「あてはまる(とても+やや)」(以下、「肯定的回答」)の割合は84.3%であった。

「とてもあてはまる」を4点、「ややあてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「まったくあてはまらない」を1点としてスコア化したところ、全体では3.10となり、性別では、男性3.11、女性3.08と大きな差は見られなかったが、学年別では、小学4年で3.28で最も高く、中学3年で3.03と0.25点の開きがみられた。

学校種別でみると、小学生3.17、高校生3.08、中学生3.04となり、全体的に高い値を示しているといえる。

なお、これ以降スコア化された設問の論理的中間値は2.5である。

表 16 やると決めたことは最後までやり通す

		合計	q3-01やると決めたことは最後までやり通す				無回答	(平均スコア)
			とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない		
全体		3002 100.0%	812 27.0%	1721 57.3%	420 14.0%	49 1.6%	11	3.10
性別	男性	1602 100.0%	450 28.1%	910 56.8%	210 13.1%	32 2.0%	7	3.11
	女性	1391 100.0%	360 25.9%	805 57.9%	209 15.0%	17 1.2%	2	3.08
学年	小学3年	122 100.0%	48 39.3%	50 41.0%	19 15.6%	5 4.1%	0	3.16
	小学4年	275 100.0%	114 41.5%	128 46.5%	28 10.2%	5 1.8%	0	3.28
	小学5年	701 100.0%	189 27.0%	421 60.1%	86 12.3%	5 0.7%	0	3.13
	小学6年	26 100.0%	11 42.3%	10 38.5%	4 15.4%	1 3.8%	0	3.19
	中学1年	138 100.0%	33 23.9%	85 61.6%	18 13.0%	2 1.4%	0	3.08
	中学2年	93 100.0%	24 25.8%	57 61.3%	10 10.8%	2 2.2%	0	3.11
	中学3年	1115 100.0%	259 23.2%	653 58.6%	182 16.3%	21 1.9%	8	3.03
	高校1年	532 100.0%	134 25.2%	317 59.6%	73 13.7%	8 1.5%	3	3.08
学校種別	小学生	1124 100.0%	362 32.2%	609 54.2%	137 12.2%	16 1.4%	0	3.17
	中学生	1346 100.0%	316 23.5%	795 59.1%	210 15.6%	25 1.9%	8	3.04
	高校生(再掲)	532 100.0%	134 25.2%	317 59.6%	73 13.7%	8 1.5%	3	3.08

2) 私のことをわかってくれている人がいる

「私のことをわかってくれている人がいる」との問いでは、全体では49.5%が「とてもあてはまる」と答え、36.7%が「ややあてはまる」と答えた。肯定的回答は86.2%であった。

スコア化したところ、全体では3.33であった。性別では、男性3.26、女性3.42と女性の方が0.16高かった。

学年別では、前問に続き小学4年が3.49で最も高く、小学6年で3.08が最も低かった。範囲（レンジ）は0.31点であった。

学校種別でみると、小学生3.39、中学生3.31、高校生3.27となり、この設問に関しても全体的に高い値を示しているといえる。

表17 私のことをわかってくれている人がいる

		合計	q3-02私のことをわかってくれている人がいる				無回答	(平均スコア)
			とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない		
全体		3000 100.0%	1486 49.5%	1102 36.7%	332 11.1%	80 2.7%	13	3.33
性別	男性	1603 100.0%	723 45.1%	629 39.2%	192 12.0%	59 3.7%	6	3.26
	女性	1388 100.0%	761 54.8%	468 33.7%	138 9.9%	21 1.5%	5	3.42
学年	小学3年	122 100.0%	76 62.3%	22 18.0%	9 7.4%	15 12.3%	0	3.30
	小学4年	275 100.0%	179 65.1%	62 22.5%	24 8.7%	10 3.6%	0	3.49
	小学5年	701 100.0%	368 52.5%	241 34.4%	79 11.3%	13 1.9%	0	3.38
	小学6年	26 100.0%	12 46.2%	5 19.2%	8 30.8%	1 3.8%	0	3.08
	中学1年	138 100.0%	71 51.4%	52 37.7%	13 9.4%	2 1.4%	0	3.39
	中学2年	93 100.0%	56 60.2%	20 21.5%	14 15.1%	3 3.2%	0	3.39
	中学3年	1113 100.0%	505 45.4%	454 40.8%	126 11.3%	28 2.5%	10	3.29
	高校1年	532 100.0%	219 41.2%	246 46.2%	59 11.1%	8 1.5%	3	3.27
学校種別	小学生	1124 100.0%	635 56.5%	330 29.4%	120 10.7%	39 3.5%	0	3.39
	中学生	1344 100.0%	632 47.0%	526 39.1%	153 11.4%	33 2.5%	10	3.31
	高校生（再掲）	532 100.0%	219 41.2%	246 46.2%	59 11.1%	8 1.5%	3	3.27

3) 今の自分を気に入っている

「今の自分を気に入っている」との問いでは、全体では 35.5%が「あまりあてはまらない」と答え、最も高い割合を示した。なお、肯定的回答は 50.4%であり、およそ半数にとどまった。

スコア化したところ、全体では 2.52 であり、前年（2.53）とほぼ同じであった。性別では、男性 2.60、女性 2.42 と男性の方が 0.18 高く、女性の値は中間値を下回った。

学年別では、小学 4 年が 2.87 で最も高く、また、高校 1 年で 2.40 と最も低く、学年進行により低下する傾向が認められた。範囲は 0.47 点であった。

学校種別でみると、小学生 2.70、中学生 2.42、高校生 2.40 となり、この設問については前年度と同じく全体的に低い値を示しており、さらに分析が必要である。

表 18 今の自分を気に入っている

		合計	q3-03今の自分を気に入っている				無回答	(平均スコア)
			とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない		
全体		2996 100.0%	465 15.5%	1047 34.9%	1065 35.5%	419 14.0%	17	2.52
性別	男性	1600 100.0%	300 18.8%	574 35.9%	514 32.1%	212 13.3%	9	2.60
	女性	1387 100.0%	161 11.6%	472 34.0%	547 39.4%	207 14.9%	6	2.42
学年	小学3年	122 100.0%	38 31.1%	43 35.2%	20 16.4%	21 17.2%	0	2.80
	小学4年	275 100.0%	84 30.5%	99 36.0%	63 22.9%	29 10.5%	0	2.87
	小学5年	701 100.0%	126 18.0%	268 38.2%	224 32.0%	83 11.8%	0	2.62
	小学6年	26 100.0%	5 19.2%	8 30.8%	8 30.8%	5 19.2%	0	2.50
	中学1年	137 100.0%	14 10.2%	51 37.2%	55 40.1%	17 12.4%	1	2.45
	中学2年	93 100.0%	11 11.8%	32 34.4%	39 41.9%	11 11.8%	0	2.46
	中学3年	1111 100.0%	138 12.4%	351 31.6%	448 40.3%	174 15.7%	12	2.41
	高校1年	531 100.0%	49 9.2%	195 36.7%	208 39.2%	79 14.9%	4	2.40
学校種別	小学生	1124 100.0%	253 22.5%	418 37.2%	315 28.0%	138 12.3%	0	2.70
	中学生	1341 100.0%	163 12.2%	434 32.4%	542 40.4%	202 15.1%	13	2.42
	高校生（再掲）	531 100.0%	49 9.2%	195 36.7%	208 39.2%	79 14.9%	4	2.40

4) 私はやればできる人間だと思う

「私はやればできる人間だと思う」との問いでは、全体の41.1%が「ややあてはまる」と答え、72.8%が肯定的に回答した。

スコア化したところ、全体では2.98であった。性別では、男性2.97、女性2.99と女性の方が0.02高いもののほぼ同じ値であった。

学年別では、小学3年が3.29で最も高く、小学6年で2.81と最も低い。この設問についても、学年進行によりおおむね低下している傾向が認められた。範囲は0.48点であった。

学校種別でみると、小学生3.15、中学生2.86、高校生2.90であった。

表 19 私はやればできる人間だと思う

		合計	q3-04私はやればできる人間だと思う				無回答	(平均スコア)
			とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない		
全体		2995 100.0%	949 31.7%	1230 41.1%	613 20.5%	203 6.8%	18	2.98
性別	男性	1599 100.0%	521 32.6%	634 39.6%	317 19.8%	127 7.9%	10	2.97
	女性	1387 100.0%	426 30.7%	592 42.7%	293 21.1%	76 5.5%	6	2.99
学年	小学3年	122 100.0%	67 54.9%	35 28.7%	8 6.6%	12 9.8%	0	3.29
	小学4年	275 100.0%	139 50.5%	85 30.9%	28 10.2%	23 8.4%	0	3.24
	小学5年	700 100.0%	276 39.4%	262 37.4%	124 17.7%	38 5.4%	1	3.11
	小学6年	26 100.0%	5 19.2%	14 53.8%	4 15.4%	3 11.5%	0	2.81
	中学1年	138 100.0%	35 25.4%	63 45.7%	33 23.9%	7 5.1%	0	2.91
	中学2年	92 100.0%	30 32.6%	38 41.3%	18 19.6%	6 6.5%	1	3.00
	中学3年	1111 100.0%	279 25.1%	464 41.8%	282 25.4%	86 7.7%	12	2.84
	高校1年	531 100.0%	118 22.2%	269 50.7%	116 21.8%	28 5.3%	4	2.90
学校種別	小学生	1123 100.0%	487 43.4%	396 35.3%	164 14.6%	76 6.8%	1	3.15
	中学生	1341 100.0%	344 25.7%	565 42.1%	333 24.8%	99 7.4%	13	2.86
	高校生(再掲)	531 100.0%	118 22.2%	269 50.7%	116 21.8%	28 5.3%	4	2.90

5) 難しいことにもくじけず頑張れる

「むずかしいことにもくじけずがんばれる」との問いでは、全体の46.3%が「ややあてはまる」と答え、肯定的回答は70.8%であった。

スコア化したところ、全体では2.90であった。性別では、男性2.93、女性2.86と男性の方が0.07高かった。

学年別では、小学4年が3.25で最も高く、小学6年で2.69と最も低かった。この設問についても、学年進行によりおおむね低下している傾向が認められた。範囲は0.56点であった。

学校種別でみると、小学生3.08、中学生2.77、高校生2.85であった。

表 20 難しいことにもくじけず頑張れる

		合計	q3-05むずかしいことにもくじけずがんばれる				無回答	(平均スコア)
			とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない		
全体		2993 100.0%	733 24.5%	1385 46.3%	712 23.8%	163 5.4%	20	2.90
性別	男性	1600 100.0%	415 25.9%	743 46.4%	354 22.1%	88 5.5%	9	2.93
	女性	1384 100.0%	316 22.8%	637 46.0%	356 25.7%	75 5.4%	9	2.86
学年	小学3年	121 100.0%	57 47.1%	35 28.9%	17 14.0%	12 9.9%	1	3.13
	小学4年	275 100.0%	121 44.0%	116 42.2%	25 9.1%	13 4.7%	0	3.25
	小学5年	696 100.0%	196 28.2%	336 48.3%	139 20.0%	25 3.6%	5	3.01
	小学6年	26 100.0%	9 34.6%	4 15.4%	9 34.6%	4 15.4%	0	2.69
	中学1年	138 100.0%	31 22.5%	67 48.6%	33 23.9%	7 5.1%	0	2.88
	中学2年	93 100.0%	22 23.7%	46 49.5%	22 23.7%	3 3.2%	0	2.94
	中学3年	1113 100.0%	205 18.4%	493 44.3%	334 30.0%	81 7.3%	10	2.74
	高校1年	531 100.0%	92 17.3%	288 54.2%	133 25.0%	18 3.4%	4	2.85
学校種別	小学生	1118 100.0%	383 34.3%	491 43.9%	190 17.0%	54 4.8%	6	3.08
	中学生	1344 100.0%	258 19.2%	606 45.1%	389 28.9%	91 6.8%	10	2.77
	高校生(再掲)	531 100.0%	92 17.3%	288 54.2%	133 25.0%	18 3.4%	4	2.85

6) 何でも話せる友だちがいる

「なんでも話せる友だちがいる」との問いでは、全体では 57.1%が「とてもあてはまる」と答え、85.2%が肯定的に回答した。しかし、学年別にみると、小学6年（回答数 26）において 15.4%（4名）が「まったくあてはまらない」と回答しており、他の学年よりも否定的な回答が多い。

スコア化したところ、全体では 3.38 と高い値を示した。性別では、男性 3.32、女性 3.45 と女性の方が 0.13 高い値を示した。

学年別では、小学5年が 3.44 で最も高く、否定的回答割合が多かった小学6年で 3.08 と最も低く、範囲は 0.48 点であった。

学校種別でみると、小学生 3.41、中学生 3.39、高校生 3.30 であった。

表 21 何でも話せる友だちがいる

		合計	q3-06なんでも話せる友だちがいる				無回答	(平均スコア)
			とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない		
全体		2997 100.0%	1712 57.1%	843 28.1%	312 10.4%	130 4.3%	16	3.38
性別	男性	1603 100.0%	859 53.6%	483 30.1%	179 11.2%	82 5.1%	6	3.32
	女性	1385 100.0%	850 61.4%	356 25.7%	131 9.5%	48 3.5%	8	3.45
学年	小学3年	122 100.0%	75 61.5%	24 19.7%	12 9.8%	11 9.0%	0	3.34
	小学4年	275 100.0%	174 63.3%	56 20.4%	26 9.5%	19 6.9%	0	3.40
	小学5年	700 100.0%	425 60.7%	178 25.4%	74 10.6%	23 3.3%	1	3.44
	小学6年	26 100.0%	12 46.2%	8 30.8%	2 7.7%	4 15.4%	0	3.08
	中学1年	138 100.0%	73 52.9%	45 32.6%	16 11.6%	4 2.9%	0	3.36
	中学2年	93 100.0%	53 57.0%	26 28.0%	6 6.5%	8 8.6%	0	3.33
	中学3年	1111 100.0%	638 57.4%	319 28.7%	115 10.4%	39 3.5%	12	3.40
	高校1年	532 100.0%	262 49.2%	187 35.2%	61 11.5%	22 4.1%	3	3.30
学校種別	小学生	1123 100.0%	686 61.1%	266 23.7%	114 10.2%	57 5.1%	1	3.41
	中学生	1342 100.0%	764 56.9%	390 29.1%	137 10.2%	51 3.8%	12	3.39
	高校生（再掲）	532 100.0%	262 49.2%	187 35.2%	61 11.5%	22 4.1%	3	3.30

7) ありのままの自分が好き

「ありのままの自分が好きだ」との問いでは、全体では35.5%が「ややあてはまる」と答え、29.4%が「あまりあてはまらない」と答えた。肯定的回答は全体の58.1%にとどまった。

スコア化したところ、全体では2.69であった。性別では、男性2.70、女性2.68と男性の方が0.02高かったもののほぼ同じ値であった。

学年別では、小学4年が3.00で最も高く、この学年のみ平均値が3点台であった。一方で、小学6年で2.12と最も低かった。範囲は0.89点となり、自己肯定感をたずねる設問の中では最大であった。

学校種別でみると、小学生2.77、中学生2.65、高校生2.61であった。

表 22 ありのままの自分が好きだ

		合計	q3-07ありのままの自分が好きだ				無回答	(平均スコア)
			とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない		
全体		2995 100.0%	685 22.9%	1063 35.5%	880 29.4%	367 12.3%	18	2.69
性別	男性	1602 100.0%	355 22.2%	606 37.8%	444 27.7%	197 12.3%	7	2.70
	女性	1384 100.0%	326 23.6%	456 32.9%	432 31.2%	170 12.3%	9	2.68
学年	小学3年	121 100.0%	44 36.4%	34 28.1%	21 17.4%	22 18.2%	1	2.83
	小学4年	275 100.0%	108 39.3%	85 30.9%	56 20.4%	26 9.5%	0	3.00
	小学5年	701 100.0%	152 21.7%	254 36.2%	223 31.8%	72 10.3%	0	2.69
	小学6年	26 100.0%	2 7.7%	8 30.8%	7 26.9%	9 34.6%	0	2.12
	中学1年	138 100.0%	23 16.7%	56 40.6%	45 32.6%	14 10.1%	0	2.64
	中学2年	92 100.0%	23 25.0%	39 42.4%	25 27.2%	5 5.4%	1	2.87
	中学3年	1110 100.0%	242 21.8%	380 34.2%	332 29.9%	156 14.1%	13	2.64
	高校1年	532 100.0%	91 17.1%	207 38.9%	171 32.1%	63 11.8%	3	2.61
学校種別	小学生	1123 100.0%	306 27.2%	381 33.9%	307 27.3%	129 11.5%	1	2.77
	中学生	1340 100.0%	288 21.5%	475 35.4%	402 30.0%	175 13.1%	14	2.65
	高校生(再掲)	532 100.0%	91 17.1%	207 38.9%	171 32.1%	63 11.8%	3	2.61

8) 自慢できることがある

最後に「他の人に自慢できることがある」との問いでは、全体では31.4%が「ややあてはまる」と答え、29.5%が「とてもあてはまる」と答えた。肯定的回答は全体の60.9%であった。

スコア化したところ、全体では2.78であった。性別では、男性2.82、女性2.74と男性の方が0.08高かった。

学年別では、小学4年が3.08で最も高く、前問と同じく、この学年のみ平均値が3点台であった。一方で、小学3年で2.50と最も低かった。

学校種別でみると、小学生2.91、中学生2.72、高校生2.65であり、小学生が相対的に高かった。

表 23 他の人に自慢できることがある

		合計	q3-08他の人に自慢できることがある				無回答	(平均スコア)
			とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない		
全体		3000 100.0%	885 29.5%	943 31.4%	800 26.7%	372 12.4%	13	2.78
性別	男性	1602 100.0%	501 31.3%	501 31.3%	404 25.2%	196 12.2%	7	2.82
	女性	1389 100.0%	380 27.4%	441 31.7%	393 28.3%	175 12.6%	4	2.74
学年	小学3年	122 100.0%	36 29.5%	30 24.6%	15 12.3%	41 33.6%	0	2.50
	小学4年	275 100.0%	127 46.2%	75 27.3%	41 14.9%	32 11.6%	0	3.08
	小学5年	701 100.0%	251 35.8%	223 31.8%	146 20.8%	81 11.6%	0	2.92
	小学6年	26 100.0%	10 38.5%	6 23.1%	7 26.9%	3 11.5%	0	2.88
	中学1年	138 100.0%	27 19.6%	46 33.3%	52 37.7%	13 9.4%	0	2.63
	中学2年	92 100.0%	30 32.6%	26 28.3%	21 22.8%	15 16.3%	1	2.77
	中学3年	1114 100.0%	300 26.9%	347 31.1%	334 30.0%	133 11.9%	9	2.73
	高校1年	532 100.0%	104 19.5%	190 35.7%	184 34.6%	54 10.2%	3	2.65
学校種別	小学生	1124 100.0%	424 37.7%	334 29.7%	209 18.6%	157 14.0%	0	2.91
	中学生	1344 100.0%	357 26.6%	419 31.2%	407 30.3%	161 12.0%	10	2.72
	高校生(再掲)	532 100.0%	104 19.5%	190 35.7%	184 34.6%	54 10.2%	3	2.65

3. まとめ

本調査は、私の未来プロジェクト事業の効果を経年的に測定する目的で実施されたものである。今年度は調査第3年度となり、前年の調査内容に加えて、平成26年度より実施されている『私の未来プロジェクト事業』の参加経験をたずねることとし、前年調査との比較も意識しながら、小学校・中学校、さらには高校に在学している児童生徒の調査協力を得た。

同年齢（学年）であっても、回答者（学校）が全く異なっていることから、前年と今年では傾向が異なるものもみられ（表24）、一般化を行うためには、さらにデータを取り続ける必要性がある。

前回同様、文化資本をたずねた質問は8つある（pp.3-10参照）。これらの設問の中で、特に家庭生活をたずねた部分については、「自分一人の勉強部屋を持っている」「家の人に勉強を見てもらったことがある」など高い割合を示したものもあれば、その一方で、「家の人は私にほとんど毎日「勉強しなさい」と言う」「家の人は、毎日、ほとんど決まった時間に起きる」については、学年によって回答にばらつきが見られた。

本報告は各設問の集計の結果を示したが、本市の所得状況を考慮したとき、各世帯の文化資本に相当のばらつきがあることが推測される。

自己肯定感の設問では、質的な選択肢を1～4点で数量化した結果、全体的に高い水準の設問と、学年によってややばらつきがみられる設問がみられたが、自己肯定感の総体としては今回もまた、小学4年をピークに学年進行とともに低下していた。そして、今回の調査対象者は、前年調査よりやや低い結果となっている。

先行研究からは、年齢の上昇とともに自己肯定感は低下することが指摘されており、本市における今年度の調査においても、そのことはおおむね支持された。

質問項目について全体スコアの高い順にみていくと、「何でも話せる友だちがいる」（全体3.38）、「私のことをわかってくれている人がいる」（同3.33）、「やると決めたことは最後までやり通す」（同3.10）の3項目が3点台であり、「私はやればできる人間だと思う」（同2.98）、「難しいことにもくじけず頑張れる」（同2.90）、「他の人に自慢できることがある」（同2.78）、「ありのままの自分が好き」（同2.69）、「今の自分を気に入っている」（同2.52）が2点台であった。

他の設問と比較して今回調査でも、「今の自分を気に入っている」が最も低く、論理的中央値2.5をわずかに超えているが、3年連続で同水準の値を示しており、また、年齢の上昇とともに自己イメージの低下傾向にあることが改めて確認された。その一方で、「なんでも話せる友だちがいる」（p.21）については、高い値が得られているものの、小学6年において15.4%、小学3年では9.0%が「まったくあてはまらない」と回答しており、他の学年よりも否定的な回答が多い。

これらの児童・生徒は安心した学校生活・日常生活を送れているだろうか。懸念される調査結果である。

表 24 生年と自己肯定感

	上段：平均値 下段：回答者数		
	調査実施年度		
	2015	2016	2017
平成20年度生まれ (現：小学3年)			24.4 120
平成19年度生まれ (現：小学4年)	25.7 55	24.9 140	25.6 275
平成18年度生まれ (現：小学5年)	24.7 186	25.7 194	24.3 694
平成17年度生まれ (現：小学6年)	26.1 149	24.7 666	22.3 26
平成16年度生まれ (現：中学1年)	24.3 563		23.3 137
平成15年度生まれ (現：中学2年)	23.1 29	23.7 250	23.9 91
平成14年度生まれ (現：中学3年)	24.4 107	22.3 189	23.1 1101
平成13年度生まれ (現：高校1年)		23.1 810	23.1 529
平成12年度生まれ (現：高校2年)	22.9 715	23.3 551	
平成11年度生まれ (現：高校3年)		22.4 141	

※空欄の箇所はデータなし、あるいはサンプル数5以下

表 25 に、『私の未来プロジェクト事業』参加経験と自己肯定感についてまとめた。今回調査から、中学生以上の回答者に対して、本事業の過去の参加経験をたずね、調査結果を検討していくというものである。

過去に参加経験があると回答したものは85名である。このあたりはもっと多いのではないかと推測できるが、質問の仕方(『私の未来プロジェクト事業』という言葉を使用するか否か)に工夫が必要である。参加経験なしと回答した者は1,125名、わからないと回答した者は490名いた。

なお、参加経験「あり」と「なし」の2グループにおいて自己肯定感の各設問の結果を比較し、平均値の差の検定を行ったところ、「ありのままの自分が好きだ(q3-07)」の項目で有意な差がみられた。

近年、核家族化、少子化・高齢化などの社会変動にともない、子どもを取り巻く環境の中で、人間関係の希薄化がさまざまな課題を生んでいる。特に、いのちを尊重する態度の乏しさ、基本的な生活習慣の未確立、規範意識や人間関係を形成する力の低下などが指摘されて

いる。

また、子どもは、小学校中学年ごろまでの「比較的穏やかな児童期を過ぎて、自分の特性について考え始め、自分はいかにあるべきか、将来どんな仕事をしていきたいか、自分はどんな仕事に向いているのか、など悩みが生まれる」のである²⁾。

よく私たちは、諸外国の子どもと比べて自己肯定感が低いことを問題視している。しかし自己肯定感が高ければ高いほど良いというものではなく、自己肯定感があまりに高すぎると、集団生活を送る中で人間関係に支障をきたしたり、向上心を欠いたりというようなマイナスの影響が現れる可能性が考えられる。その一方で、「あまりにも自分に自信がない」とか「自分に価値が見いだせない」ということが日常生活・学校生活においてよくない影響として現れるならば、自己効力感を高めるなど何らかの取り組みが必要になるだろう。

私の未来プロジェクト事業は、次年度で実質的に6年目を迎え、小学校で体験を行った子どもたちはおおむね中学生になっている時期である。さらに本事業の効果に関する分析も進めていきたい。

表 25 『私の未来プロジェクト事業』参加経験と自己肯定感

	過去の参加経験		p
	あり (n=85)	なし (n=1129)	
q3-01やると決めたことは最後までやり通す	3.09	3.08	
q3-02私のことをわかってくれている人がいる	3.39	3.32	
q3-03今の自分を気に入っている	2.59	2.43	
q3-04私はやればできる人間だと思う	3.05	2.92	
q3-05むずかしいことにもくじけずがんばれる	2.91	2.81	
q3-06なんでも話せる友だちがいる	3.39	3.36	
q3-07ありのままの自分が好きだ	2.87	2.66	*
q3-08他の人に自慢できることがある	2.75	2.73	
	24.0	23.3	
			*:p<.05

【注・引用文献】

- 1) 岩永定・柏木智子ほか (2013) 「子どもの自己肯定意識の実態とその規程要因に関する研究」『熊本大学教育学部紀要』第 62 号, pp101-108、を参考にした。
- 2) 栗谷初子・本間友巳 (2009) 「思春期の自己肯定感のあり方に影響を及ぼす要因について—学校生活適応感, 生活習慣との関係を中心に—」『京都教育大学教育実践研究紀要』第 10 号, p. 193